

遺跡からわかった盛南地区の歴史

足元にねむっている遺跡を調べることで、書物に記録のないむかしの人々のくらしがあらかになります。

これまでの発掘調査で分かった盛南地区の歴史を紹介します。

縄文時代 晩期 (今からおよそ2000年前ころ)

自然の恵みをうけ人々が生活した縄文時代の終わり頃、ムラがつくられました(本宮熊堂A遺跡・台太郎遺跡)。人々は川のそばに動物をつかまえるためのおとし穴を掘りました(飯岡才川遺跡など)。つかまえた動物は食べたり皮を利用したことでしょう。

古代(古墳時代～平安時代) (今からおよそ1400～800年前)

古墳時代末～奈良時代になると広い平野に田畑をつくり農耕をおこなうムラが出現しました。族長の住む大きな竪穴住居を中心に、一族がそのまわりにくらししていました。

平安時代になると、朝廷の役所である志波城がつくられました。それ以降、ムラが平野のあちこちにつくられるようになるとともに、族長たちの古墳が作られた場所(飯岡沢田遺跡など)、水辺の祭をおこなう場所(向中野館遺跡)などが現れました。その後、有力者の支配の拠点となった大きな建物のあるムラも出現しました(大宮北遺跡・林崎遺跡)。

中世(鎌倉時代～戦国時代) (今からおよそ800～400年前)

奥州藤原氏が滅亡した後、かわらけをつかった儀式や宴会を行い地域を支配した館が大宮遺跡につくられました。

鎌倉～戦国時代には地域を支配する武士達がありました。特に台太郎遺跡には、不整五角形に堀をめぐらせた館がつくられました。

近世(江戸時代) (今からおよそ400～140年前)

江戸時代になると、雫石川は現在の流路となり、奥州道中や仙北組丁が開かれ、盛南地区周辺は田畑が広がり曲がり家などの農家が点在するようになりました。

江戸時代の絵図と発掘調査の成果をくらべると、江戸時代の道路や地名が盛南開発以前の様子と大きなちがいがありません。

盛南地区のおもな遺跡の特徴

遺跡をしらべるといろいろな時代の生活の跡が、次々とみつかります。盛南地区には縄文時代からずっと人々が暮らしているのですね。

- ◇小幡遺跡【本宮字小幡】：奈良・平安時代の集落と江戸時代の農家やその区画溝。
- ◇大宮北遺跡【本宮字大宮】：平安時代後半の拠点的な集落。掘立柱建物跡や区画溝は志波城の後に地域を支配した有力者の館。林崎遺跡(9世紀末～10世紀前半)、大宮遺跡(12世紀後半～13世紀初頭)の前後に栄えた。
- ◇宮沢遺跡【本宮字宮沢】：竪穴住居跡や溝跡などがみついている。溝跡には平安時代(915年ころ)に噴火した十和田湖から飛んできた火山灰が堆積。
- ◇本宮熊堂A遺跡【本宮字熊堂】：本地域内で数少ない縄文時代晩期の竪穴住居跡群。
- ◇本宮熊堂B遺跡【本宮字熊堂】：奈良～平安時代の集落。「吉」「万」「成」など文字の書かれた土器も多く出土。
- ◇野古A遺跡【本宮字野古】：奈良～平安時代の集落。大形竪穴住居跡と小形竪穴住居跡数棟からなる奈良時代の集落の様子がよくわかる。
- ◇台太郎遺跡【向中野字台太郎・八日市場・向中野】：縄文時代晩期から江戸時代まで断続的に続く集落遺跡。中世戦国時代の館・土坑墓群が特徴的。
- ◇南仙北遺跡【向中野字鶴子】：平安時代の集落や区画溝、江戸時代の道路跡など。
- ◇飯岡沢田遺跡【飯岡新田沢田】：平安時代の集落と古墳群。古墳は約50基も。仏教を信じた有力者の火葬骨蔵器も出土。
- ◇飯岡才川遺跡【飯岡新田才川】：縄文時代のおとし穴や平安時代の大型竪穴住居跡、倉庫跡。
- ◇向中野館遺跡【向中野才川】：平安時代の集落、水場、中世の館跡。平安時代、水場では祭がおこなわれていた可能性がある。
- ◇細谷地遺跡【向中野細谷地】：奈良～平安時代の集落。向中野館遺跡の水場で祭を行っていた集落の可能性がある。
- ◇矢盛遺跡【飯岡新田】：戦国時代末の館と村の跡。
- ◇鬼柳A遺跡【本宮字鬼柳】 ◇稲荷遺跡【本宮字稲荷】

※各遺跡には、案内看板が順次設置されます。



本宮熊堂B遺跡出土 土器(平安時代)



台太郎遺跡の中世の堀跡

お問い合わせ先 盛岡市 遺跡の学び館

〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13-1

TEL019-635-6600 FAX019-635-6605

URL <http://www.city.morioka.iwate.jp/> (公共施設情報からお入り下さい)

e-mail iseki@city.morioka.iwate.jp

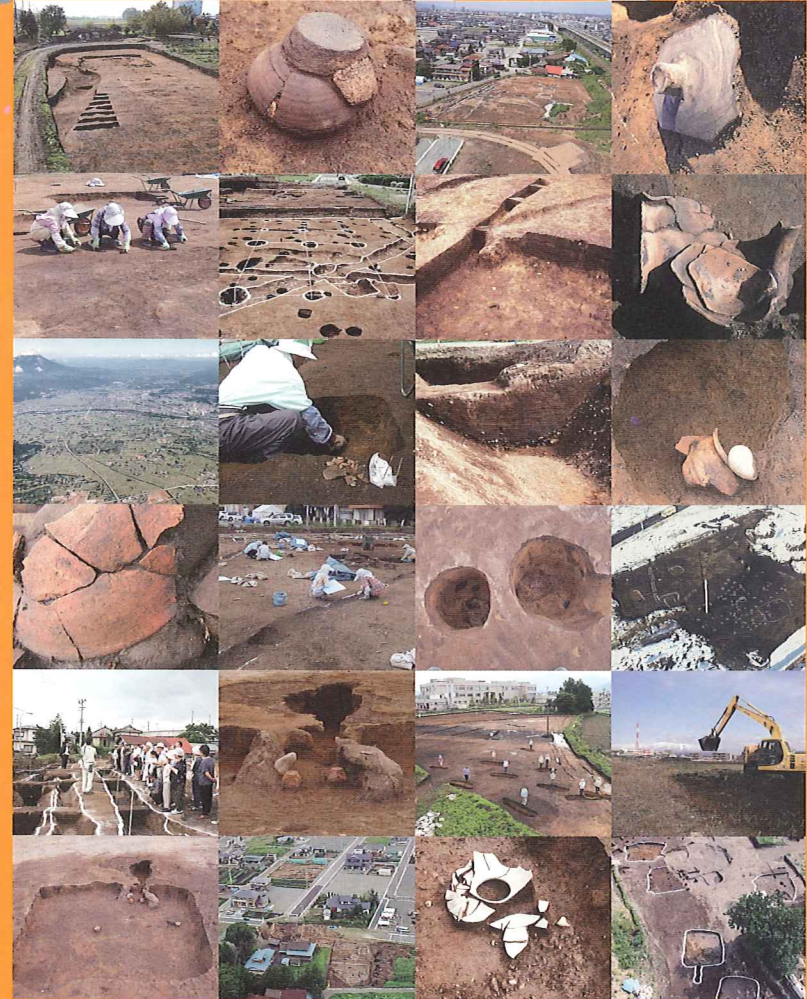
交通案内

- バス【岩手県交通】
 - ◎盛岡バスセンター発 JR盛岡駅前10番乗場経由太田線「先人記念館」行き「子ども科学館前」下車
 - ◎JR盛岡駅前10番乗場発 盛南ループ200線(下川原先回り)「総合プール前」下車
- 車／盛岡駅より約10分、東北自動車道盛岡ICより約20分

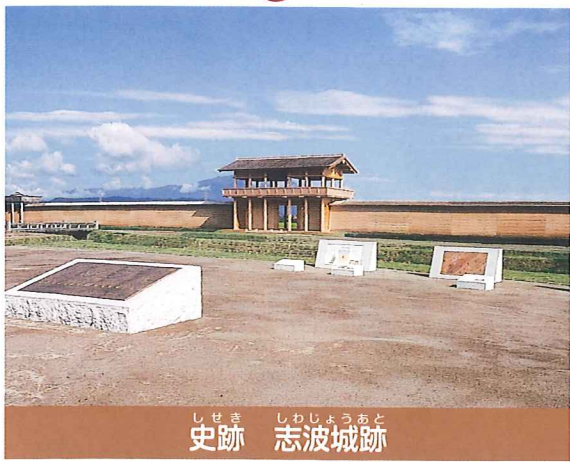
盛南地区

遺跡ガイドマップ

～足もとにねむる歴史を知ろう～



盛岡市遺跡の学び館



史跡 志波城跡

今から約1200年前の平安時代はじめにつくられた城柵(朝廷の役所)。東北地方経営のため、陸奥国最北端、最大級の城柵として坂上田村麻呂によって造営されました。今は志波城古代公園として復元整備されています。



飯岡沢田遺跡 円形周溝跡

周辺を見晴らせる小高いこの場所には、地域の族長が葬られた古墳が約50基見つかりました。志波城が作られた後も、周辺の人たちは伝統的な古墳を作りつづけたようですが、仏教の影響を受けた火葬骨蔵器も出土しています。

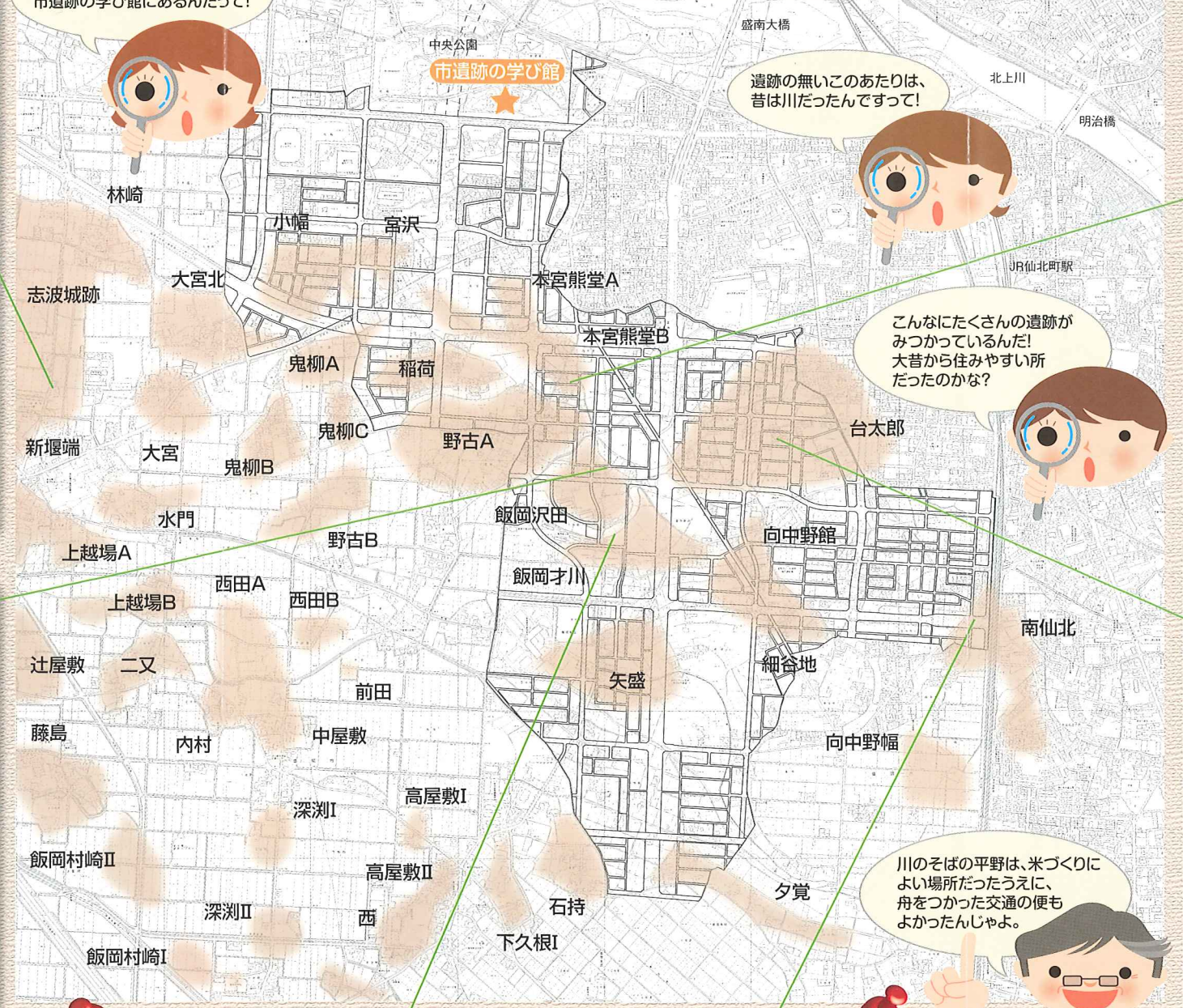
【(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター写真提供】

写真の向かって右側は川の跡で、その縁にそって人がすっぽり入るくらい深いおとし穴がたくさん見つかりました。川によってくる動物をねらったのでしょうか。



飯岡才川遺跡 第10次調査区 おとし穴

せいなんちくしゅうへん いせきぶんぷ 盛南地区周辺の遺跡分布



土器などの出土資料は市遺跡の学び館にあるんだって!



遺跡の無いこのあたりは、昔は川だったんですって!



こんなにたくさんの遺跡が見つかっているんだ! 大昔から住みやすい所だったのかな?



川のそばの平野は、米づくりによい場所だったうえに、舟をつかった交通の便もよかったんじゃないよ。



本宮熊堂B遺跡 第28次調査区 全景

平安時代の竪穴住居跡が密集して見つかりました。「万」「有」「閉」などの文字が墨やヘラで書かれた土器が出土しました。また、カマドがこわされ、土器が重ねて伏せられて見つかりました。これは住居を捨てる時にいったカマド納めの儀式と考えられます。



台太郎遺跡 奈良時代の大型竪穴住居跡

盛南地区最大の面積の台太郎遺跡からは、これまでおよそ600棟以上の古代の竪穴住居跡が見つかりました。奈良時代は大型の竪穴住居のそばに中～小形の竪穴住居が作られていました。古代の竪穴住居は一辺約3～10mの方形で、煙を外へ出す煙突のような煙道をもつカマドがつくられていました。



南仙北遺跡 第38次調査区 全景

調査区の左端にみつかった南北に伸びる溝跡群のうち外側の2条は、江戸時代の道路側溝の可能性ががあります。調査区のすぐ外側にある道路が江戸時代から少しずつ場所をかえながら通っていたことがわかります。江戸時代の絵図面と見比べると、道路跡や地名など、開発前の姿を見るようです。